

第 387 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 (令和 5 年 1 月) 在宅聴取による遠隔開催
2. 番組聴取講評 [番組名] 廣木弓子のおきにいり
[放送日時] 令和 4 年 12 月 3 日・12 月 24 日(土)
5:30~6:00
[出演者] 廣木弓子
3. 講評者 [委員] 副委員長 角田哲康 委員 加藤裕治
委員 小野晃司 委員 山本浩二
委員 土屋維子
4. 番組審議
[対象番組] 廣木弓子のおきにいり
[放送日時] 令和 4 年 12 月 3 日・12 月 24 日(土)
5:30~6:00
[出演者] 廣木弓子
[番組内容] パーソナリティ廣木弓子が、今気になるものや夢中になっているものの話をゆるりとお届けしながら、時々県内のどこかでのお出かけ取材も！？
土曜の朝にピッタリな音楽と共にお送りする番組。

[自宅聴取・講評]

土屋委員 けだるい土曜の朝に聴くには適した選曲。自分が K-mix でかつてパーソナリティであった”廣木弓子”さんを知らないのでは、懐かしいという感覚はない。廣木さんが得意とする分野は何なのか？
番組の「色」が見えてこない。番組を通して、何をしたいのか？
目指しているのかがよくわからなかった。番組プロデューサーは、この番組で、懐かしいパーソナリティを引っ張ってきて何をしたかったのか？選曲の良さで「曲を楽しむだけ」、というのであればこのままでいいと思うが、自分には正直に言うと、この番組の立ち位置や意義、方向性等がよくわからなかった。

山本委員 土曜日の早朝なので、その前の番組みたいに静かな番組だと思っていたら、驚いた。廣木さんの元気なお声から始まり、時折笑顔が見えるような笑い声があり、朝からリスナーを元気にする番組だなあと考えた。

また、早朝にかかわらず多くのメールを読んでいたのでもさらに驚いた。ベテランということなのかトークも軽快で30分があつという間に感じた。廣木弓子さんの人気の高さを感じた。週末の始まりを元気にするいい番組だと感心もした。また、番組の狙いがそうであるかのようで、選曲も元気になる明るい曲が多く、早朝に散歩しながら聞いているリスナーにとっては、心地よい番組だと思う。聴いているこちら側も元気をもらえた。

小野委員

早朝の番組であるため、落ち着きある語りと選曲がいい意味でオーソドックスな雰囲気を出している。廣木弓子の、久しぶり、10年ぶりで懐かしいリスナーが多いと思うが、懐かしんでいるばかりになるのではないかと若干の不安も感じた。番組構成に新しいコーナーを検討するか検討するべきと思われる。ありのままを伝えるという「廣木弓子」を「素材そのもの」としてコンテンツにしているとは想像できた。今後の展開を期待させる不思議なワクワク感も感じる。

加藤委員

- ・廣木弓子さんの語りは、とても安定しており、聞いていて安心感があつた。K-mix 所属時からのファン、同世代の女性、あるいは子育て中の世代がこの番組のメイン・ターゲットかと思うが、その世代の方々の関心に対応したトークや音楽で楽しめる番組であると感じた。
- ・番組のテイストは、「おきにいり」というコンセプトをもとに、ファッション雑誌的な雰囲気のトークを、軽快で楽しいテンポで進めるものだった。肩の力を抜いて、リラックスして聞くことができ、内容もポジティブである。そのため明るい気分になさしてくれる点が、この番組の大きなメリットだと感じた。
- ・12月1日初回では、冒頭に公園巡りのロケが挿入されており、廣木さんのお子さんもご出演されるなど、You Tube 的とも言えるプライベート感が出ていて面白い演出だと思った。またラジオの話題からInstagramへ繋げる試みも興味深かった。ただしInstagramを確認したが、連動してアップする写真については、もし今後も続けるならば、どのような写真を選ぶのか少々工夫が必要かとも思った。
- ・12月24日の絵本紹介、および読み聞かせ関連についてのトークは、関心が高いのではないかと思った。子育て世代だと、どんな絵本を選べばいいのか。また、どのように子供に興味を持たせればいいのかといった点は大きな悩みでもある。そのため、こうしたテーマで話を

してくれることは、とても役に立つものだと思う。またそれらの絵本を知っている人々にも、共感が得られる内容なのではないか。

- ・現在、先行きが見通せない社会の雰囲気の中で、こうしたポジティブで明るい番組が求められることも多いのではないかと思う。またこの番組は、子育てに対して「難しい」というのではなく、楽しく気楽にできるのだというメッセージを与えている。こうした点から、物事を解決する情報提供というよりも、心にホッと一息つける雰囲気を与える番組だと思った。一方でこうしたテイストを持つ番組自体は、すでに番組として完成している雰囲気があり、今後、長期的に続ける場合、定番的な番組となっていくのか、あるいは趣向を変えた別展開があり得るのかについて、少々気になるところがあった。

角田副委員長

<評価すべきポイント>

- ・ベテランらしさが話し方に出ており、トークに圧がなく聴き疲れがない。
- ・廣木さんのファンにとっては、あの「笑い」も懐かしく、「らしさ」を思い出しながら楽しめる。
- ・中学生のリスナーなど、おそらく新規のファンにとっても親近感が持てるトーク、そして曲に選曲が評価できる。
- ・今後番組が進むに連れてリスナーとの一体感が期待でき、リスナー層が広がる可能性がある。
- ・早朝らしくウクレレ、アコースティックのBGMが心地良い。
- ・私自身廣木さんの番組が復活したのはとても嬉しく、今後も聴き続けていきたいという「廣木ワクワク感」を抱かせる番組。

<改善してみてはどうかと思われるポイント>

- ・番組のタイトルにある「おきにいり」感がまだ十分に現れていないのではないか。タイトルの内容が今後より反映されていく構成が必要で、そうでないと「廣木人気」の番組(それはそれで良いのだが)として、タイトルと関係のない「リスナーとの交流番組」的になってしまう懸念がある。「懐かしい」が落ち着いた時に、この点が浮き彫りになるかもしれないと思った。
- ・番組の時間に対して音楽4曲は多いと感じる。3曲までが時間的にバランスが良いのではないかと感じる。特に2曲連続は、聴き疲れしてしまった。もう少し廣木さんの話(子供ネタ以外のおきにいり)が聞ければと思う。
- ・早朝の番組として「朝早くからリアタイでありがとう」という趣旨の発言の割に、「録音なので、私はこの時間に聴いていないかも」「タイムラグが

あるので、最新の話題とはなっていないかも」等の発言が多々ある。リスナーの何人からは「早起きで、リアタイで聴いている」とのコメントがあった。Radiko による他県のリッスナーもいることは radiko の優れた点であるが、早朝番組というコンセプトをアピールしている以上、発言には注意が必要と考える。どの時間帯でリスナーが聴いているとしても、「早朝のラジオ番組」というコンセプトは大切にすべきである。

次回開催日 令和5年2月7日（火） 11:00～13:00 を予定

以上

番組審議会委員長代理
服 部 乃 利 子